



「日常の延長に防災を」

校長 青海 正

9月1日は防災の日。学校では、地域班ごとのに集団下校訓練を行いました。防災の日は、昭和35年に制定されました。9月1日になったのは、さかのぼること、大正12年9月1日に起きた、関東大震災に由来します。この防災の日が制定された理由は、日本が自然災害の多い国であることと関係しています。日本では、地震や津波・高潮・台風・豪雨・洪水など、自然災害が少なくありません。そのため、災害に対する認識を深めること、また、自然災害に対する備えや対策を強化することを目的に、防災の日が制定されました。防災対策に力を入れることが、災害の被害を未然に防止することや被害を最小限に抑えることへ繋がるからです。平成23年3月11日三陸沖を震源に起きた東日本大震災では、国民生活上の重要なライフラインである情報通信インフラ（日々の生活を支える基盤）にも、甚大な被害が発生しました。通信網については、東北・関東地方を中心に回線が途絶え、停電等により情報通信機器が使用できなくなるなどの被害が発生しました。そのため、私は家族に連絡が取れず、深夜、翌日になり、徒歩で帰宅するまで、安否確認ができませんでした。この機会に、家族の間で連絡が取れなくなった場合のことなど、発災時のことについて、お家で話題にしてください。



平成23年(2011)4月10日(岩手県大槌町)
民宿の上に取り上げた鑿町の釜石市の観光船「はまゆり」



国道15号、品川駅付近(午後7時15分)を歩く
たくさんの帰宅困難者